

第4次地域福祉計画策定

アンケート調査結果概要

共通設問

地域福祉計画推進協議会委員

民生委員・児童委員

ボランティア団体

ふれあいサロン活動者

社会福祉法人(社会福祉施設)

高齢者支援総合センター

高齢者みまもり相談室

児童館

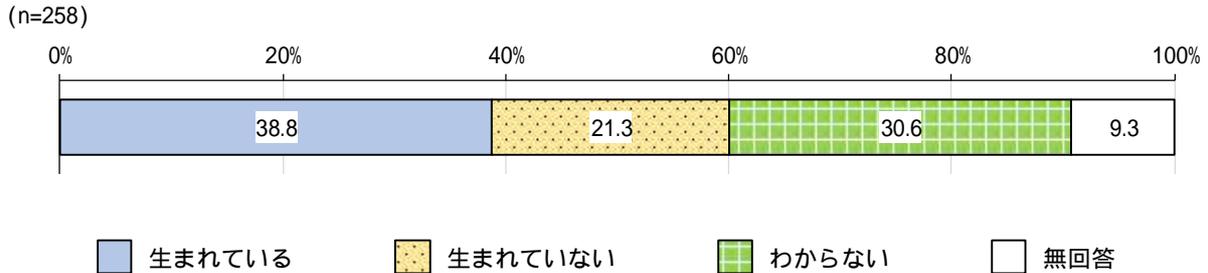
区関係機関

共通設問

1. プラットフォームによる地域福祉について

問1 地域の課題を解決するために様々な関係者が集まり、連携・協働していく場である「プラットフォーム」が、地域に生まれていますか。(○はひとつだけ)

「生まれている」が38.8%と最も高く、次いで「わからない」が30.6%となっています。

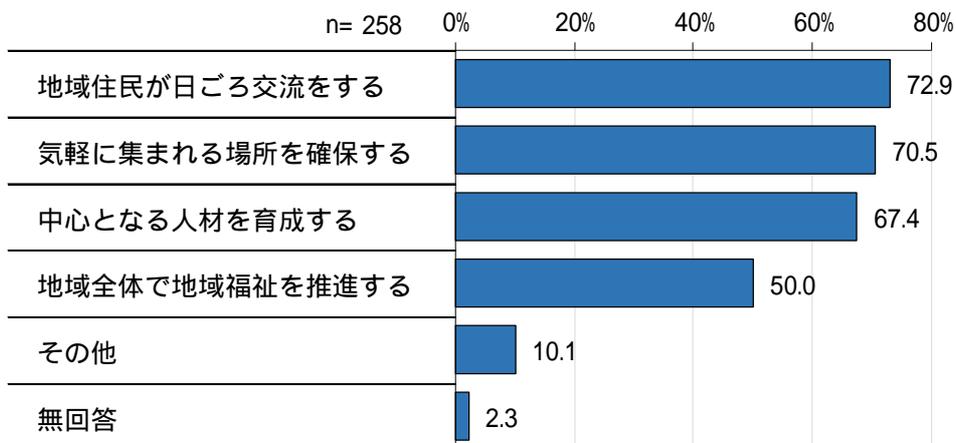


「生まれている」の主な取り組み

- ・町会のマップ作り
- ・誰でも集まれるサロン・カフェ等
- ・サポート隊・みまもり隊など(多数あり)
- ・町会の若手による高齢者世帯の簡単なニーズにこたえる活動
- ・地域のために「したいこと」「できること」を話し合い実行に移す活動
- ・地域の関係機関の協働による仲間づくり、支えあい、閉じこもり予防等
- ・認知症予防活動を実施
- ・元気になる健康体操
- ・終活について情報発信する有志の会
- ・地域の課題解決に向けた取り組み
- ・不登校児等対応連絡会議
- ・町会主導の「防災教室」

問2 「プラットフォーム」が生まれ、活動していくためには、何が必要だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

「地域住民が日ごろ交流をする」が72.9%と最も高く、次いで「気軽に集まれる場所を確保する」が70.5%となっています。



「その他」の主な回答

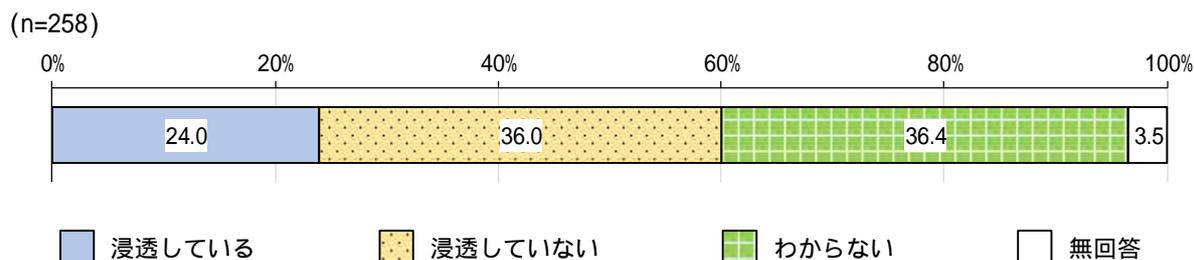
- ・行政の支援
- ・関係機関の連携
- ・地域住民と関係機関の意見交換の場
- ・地域の現状把握
- ・プラットフォームに関する広報、周知

2. 地域共生社会の実現に向けた地域づくり

(1) 福祉の施策や活動に関する情報の発信・入手について

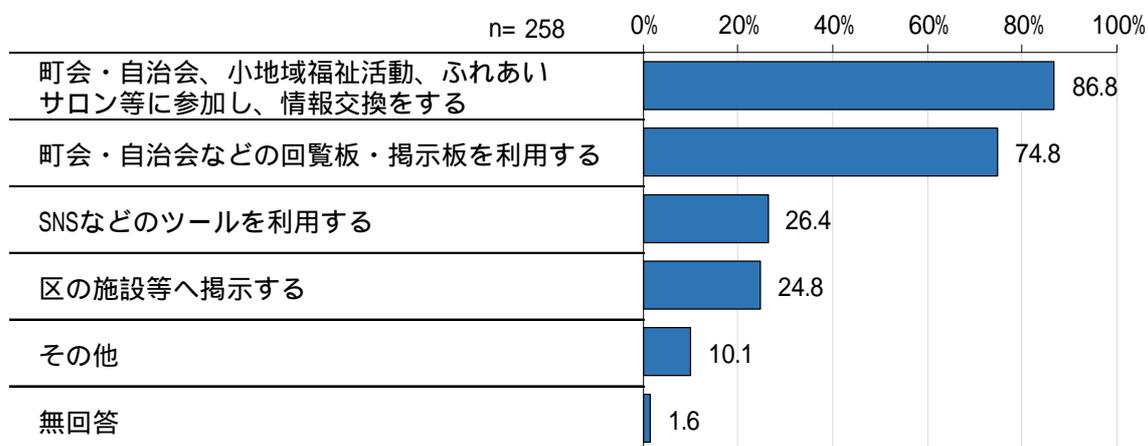
問3 福祉の施策や活動が、地域に浸透していますか。(○はひとつだけ)

「わからない」が36.4%と最も高く、次いで「浸透していない」が36.0%となっています。



問4 ご自身が地域住民に情報発信、あるいは地域住民の情報を入手する場合どのような手段が有効だと考えますか。(あてはまるもの全てに○)

「町会・自治会、小地域福祉活動、ふれあいサロン等に参加し、情報交換をする」が86.8%と最も高く、次いで「町会・自治会などの回覧板・掲示板を利用する」が74.8%となっています。



「その他」の主な回答

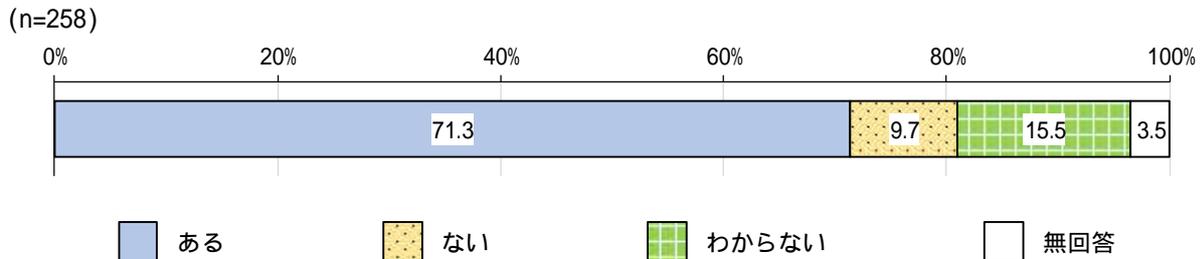
- ・ちょっとした声かけや立ち話、口コミ
- ・様々な障害を持つ人の「ふれあいの場」
- ・メディアの利用
- ・イラストや大きな文字を使ったチラシ配布
- ・商業施設、教育施設等への掲示

・ SNS 利用促進

(2) 地域での支えあい活動について

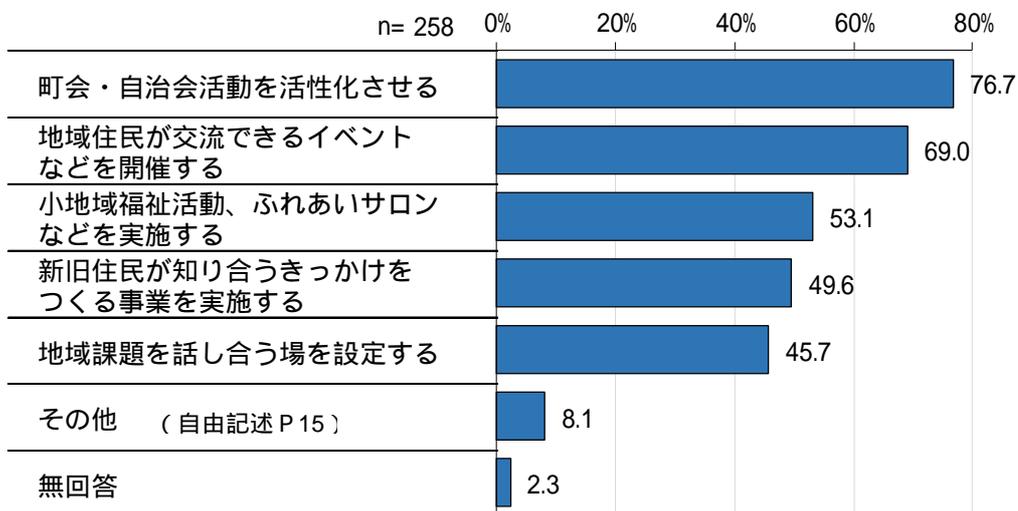
問5 お住いの(活動されている)地域では、日ごろから地域のつながりがありますか。
(○はひとつだけ)

「ある」が71.3%と最も高く、次いで「わからない」が15.5%となっています。



問6 地域のつながりを強くするには、どのような活動が有効だと思いますか。
(あてはまるもの全てに○)

「町会・自治会活動を活性化させる」が76.7%と最も高く、次いで「地域住民が交流できるイベントなどを開催する」が69.0%となっています。

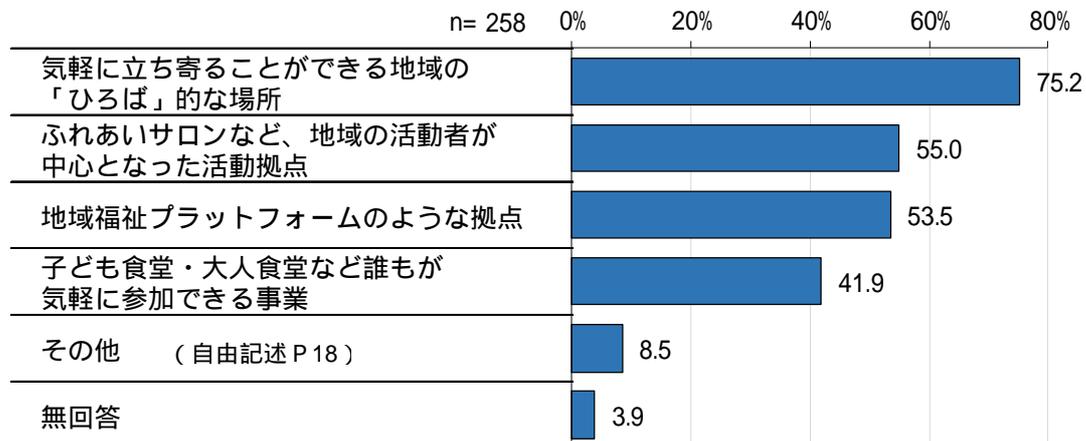


「その他」の主な回答

- ・子ども・若者と連携をとる。
- ・祭りや花見に誘う。
- ・食を通じた交流をする。
- ・子どもを中心とした活動をする。
- ・気軽に集える場を企画する。
- ・町会・自治会等の広報誌や街のタウン誌を作成する。
- ・障害者と交流できるよう、手話等ができる人が庁内にいるといい。
- ・リサイクルの機会に集合住宅の各フロアの方にお手伝いを頼み、紹介しあう。

問7 地域住民が相互に交流できる場(拠点)として、どのようなものが必要ですか。
 (あてはまるもの全てに○)

「気軽に立ち寄ることができる地域の「ひろば」的な場所」が75.2%と最も高く、次いで「ふれあいサロンなど、地域の活動者が中心となった活動拠点」が55.0%となっています。



「その他」の主な回答

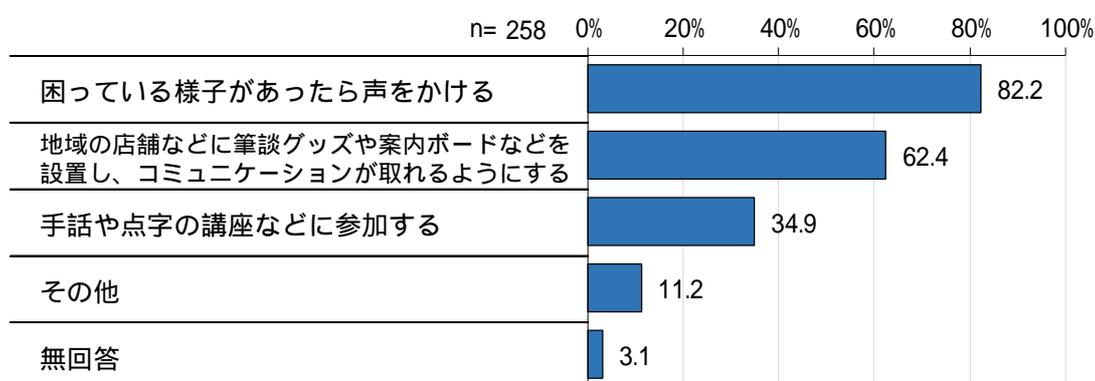
- ・同じ趣味や嗜好の仲間と楽しめる場所
- ・子どもと高齢者が過ごせる適度に広い公園
- ・参加型ではなく訪問型
- ・web プラットフォーム等
- ・子ども食堂

3. 誰もが心を通わす暮らしやすいまちをつくる

【墨田区手話言語及び障害者の意思疎通に関する条例について】

問8 この条例は、手話や様々なコミュニケーション手段が利用しやすい環境の整備と、誰もが人格と個性を尊重しあいながら共生する地域社会の実現を目指すことを目的としています。このような社会をつくるために、地域でどのようなことができると思いますか。(あてはまるもの全てに○)

「困っている様子があったら声をかける」が82.2%と最も高く、次いで「地域の店舗などに筆談グッズや案内ボードなどを設置し、コミュニケーションが取れるようにする」が62.4%となっています。



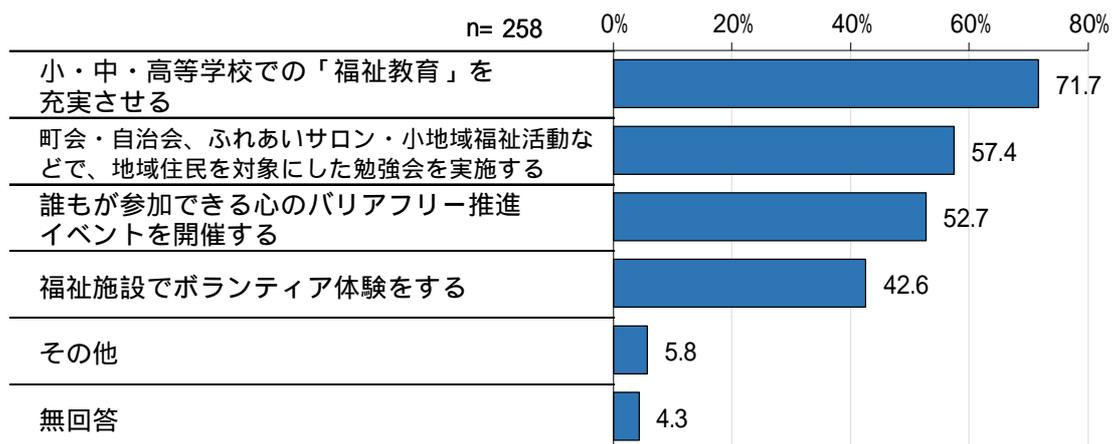
「その他」の主な回答

- ・小学校のころから特別支援学校と交流できる機会を作ったり、手話等を学ぶ機会をつくる。
- ・住民が地域共生社会を意識できるような運動をする。
- ・住民同士のふれあいの場を設ける。
- ・障害者や高齢者のことを知る機会をつくる。
- ・手話や展示等の技術がなくてもできることを学ぶ。
- ・障害者の方から、直接「困っていること」「どのように関わったらよいか」などを聞く機会を設ける。
- ・点字や手話を気軽に学べるところを増やす。
- ・会社や組織に手話等の講師を派遣する。
- ・パラリンピックの種目など、興味を持てる内容から体験する。
- ・個人で筆談グッズを携帯する。
- ・地域の中にボランティアサークルを作る。
- ・行政からの回覧物に点字を入れる。

問9 社会には多様な人が存在し、その中には様々なバリアにより社会参加が困難な人がいます。施設や設備などのハード面のバリアフリーだけではなく、心のバリアフリーを広めるためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。

また、どのようなことに取り組みたいですか。(あてはまるもの全てに○)

「小・中・高等学校での「福祉教育」を充実させる」が71.1%と最も高く、次いで「町会・自治会、ふれあいサロン・小地域福祉活動などで、地域住民を対象にした勉強会を実施する」が57.4%となっています。



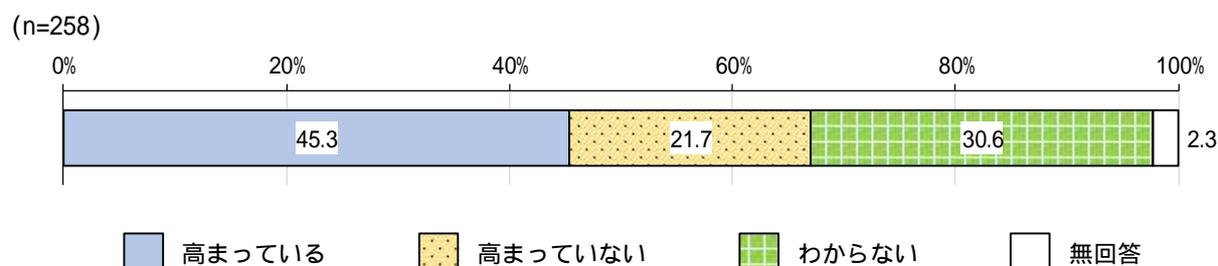
「その他」の主な回答

- ・イベントに来ない人に、どうやって来てもらうかを考える。
- ・実体験を伴う交流会を開く。
- ・専門家の育成に努める。
- ・様々なバリアで社会参加がむずかしい人の話を聞く。
- ・すみだまつりのようなイベントで、積極的に啓発事業を実施する。
- ・苦手なことをお手伝いすることで信頼関係を築き、相手も気を遣わずに利用できるような人間関係を構築したい。

4. 災害に備えたまちづくり

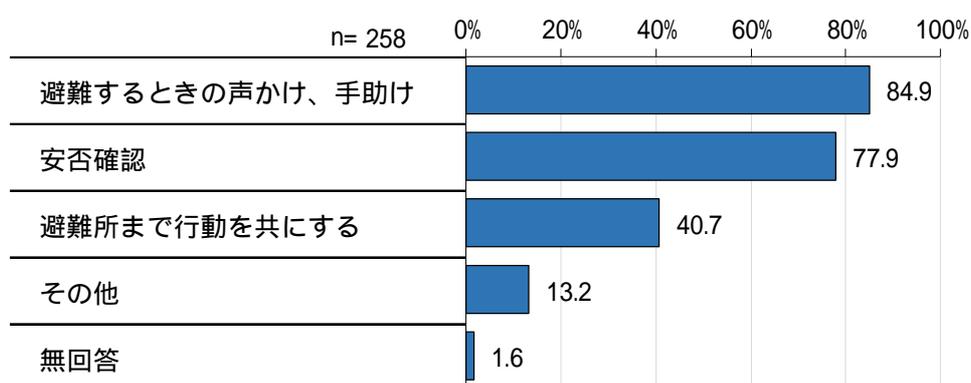
問 10 お住まいの(活動されている)地域では、災害時に助け合う意識が高まっていますか。(○はひとつだけ)

「高まっている」が 45.3%と最も高く、次いで「わからない」が 30.6%となっています。



問 11 災害時に地域(ご自身・事業所等)でできることはどのようなことですか。(あてはまるもの全てに○)

「避難するときの声かけ、手助け」が 84.9%と最も高く、次いで「安否確認」が 77.9%となっています。

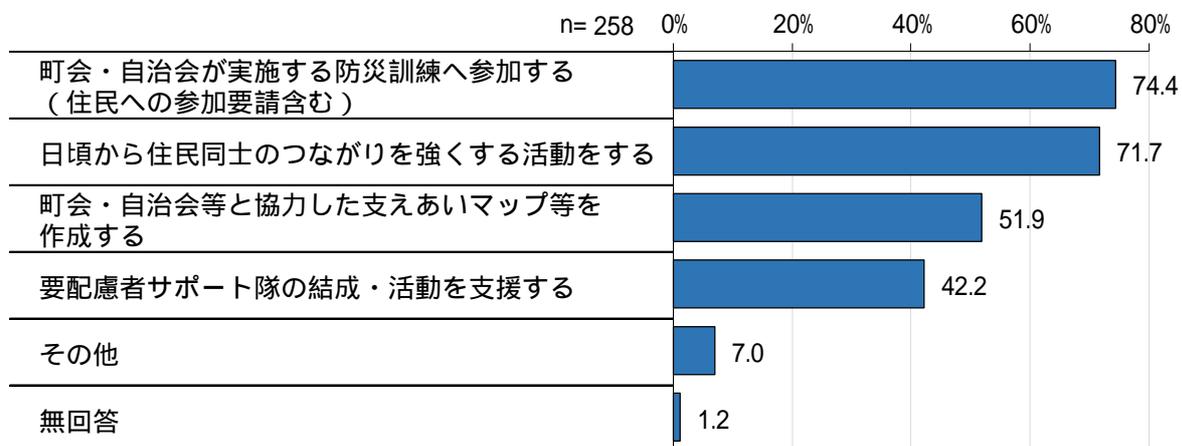


「その他」の主な回答

- ・避難場所、マンホールトイレ、炊き出しの場などの提供
- ・炊き出しなどの手伝い
- ・一時避難所になった時の利用者への支援
- ・避難準備の手伝い
- ・避難に準備が必要な方の地域での事前把握
- ・避難所への案内

問 12 災害時に助け合うために、日ごろから地域(ご自身・事業所等)で取り組みたいことはどのようなことですか。(あてはまるもの全てに○)

「町会・自治会が実施する防災訓練へ参加する(住民への参加要請含む)」が74.4%と最も高く、次いで「日頃から住民同士のつながりを強くする活動をする」が71.7%となっています。



「その他」の主な回答

- ・困っている人の現状把握
- ・要配慮者への支援ができるようなシステムづくり
- ・若者が参加する意識向上のためのイベント
- ・災害派遣福祉チームの設立
- ・地域ニーズのアセスメントと災害時計画作成
- ・関係機関ネットワーク構築
- ・実態把握
- ・利用者避難

問 13. 新型コロナウイルス感染拡大による、いわゆる「巣ごもり」状態の影響は、どのようなところに出ていますか。

主な回答

- ・声掛けが減って、体調をくずしている人が増えている。
- ・孤独死した人がいる。
- ・高齢者の安否確認が不十分となっている。
- ・孤立している人が増加している。
- ・言葉がスムーズに出なくなった人がいる。
- ・オンライン導入が叫ばれているが、使えない高齢者がほとんどである。
- ・まじめな高齢者ほど外に出ず訪問も嫌がるため、フレイルが増加している。
- ・足腰が弱くなり、転倒して骨折という人が増えている。
- ・高齢者の認知機能が低下している。
- ・うつ状態の高齢者が増えている。
- ・人と人のつながる場がなくなってしまった。
- ・病院に行くことを我慢している人が多くいる。
- ・フェイクニュースなどで混乱している人もいる。
- ・乳幼児親子が孤立している。
- ・乳幼児活動に参加することでリフレッシュしていた保護者がフラストレーションを抱えていて余裕がなくなっているように見える。
- ・外国人は帰国することもできず孤立し、日本人以上に影響が出ていると思う。
- ・筋肉が衰えた。
- ・訪問しづらい。
- ・健康・体力が低下した。
- ・夏には熱中症の人も増えた。
- ・地区全体に閉そく感が広がっている。
- ・仕事が減って、イライラが多くなった。

問 14 . 新型コロナウイルス感染拡大の影響は数年間続くとも言われています。各分野でガイドライン等が示されていますが、「ウィズコロナの新しい日常」として様々な「制限」をされた中、つながりを途絶えさせないための取り組みとして工夫していることがあれば教えてください。

主な回答

- ・近所で高齢者に会ったときは、なるべく声をかけるようにしている。
- ・近づくこと怯える人もいるので近づかず、長話をしないように声をかける。
- ・一人暮らしの高齢者の方にはインターフォン越しに話している。
- ・対面が一番だと思うので、感染対策をしっかりと状況を見ながらふれあいサロン等に参加したい。
- ・一人暮らしが多いので、食事をしないおしゃべりの会を続けている。
- ・感染症対策をしっかりと行って、安心して遊べる場所という居場所づくりに努める。
- ・オンラインを活用してつながりを保つ。
- ・感染防止に気を付けて、サロン活動を続けていく。
- ・感染リスクの少ない屋外での活動から始まっている。
- ・対策をしながら活動しているが、限界を感じている。
- ・少人数でも集まり、地域の状況を報告しあっている。